

「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ3号

2017年5月



ギンヤンマ (ヤンマ科)

目次

- 1. 4月活動報告 2
- 2. ムシプロだより 4
- 3. 自然の楽しみ方 (春) 5
- 4. 事務局より 6
- 今月の表紙 6

1. 4月8日（土）の活動報告

スタッフ7名を含めて18名で第二ビオトープの土で固めた観察路と花壇の整備を行いました。

■ 第二ビオトープの整備

観察路は、2015年7月に整備をしましたが、観察路の側面が崩れていました。前は板や木の枝で側面を補強しましたが今回はシノダケで補強しました。シノダケの強度を出すために3本を一束にして側面に積み上げました。この作業は女性陣が担当しました。シノダケは、スタッフの大原さんに約600本を用意していただきました。

また、深場を埋め戻すために深場の底に敷いてあったビニールシートを撤去しました。水を含んだ泥は予想以上に重くとても大変な作業となり作業が終了した時は、予定時刻を大きく過ぎていました。



⇨作業前の状況、側面が崩れている。



⇨整備後の状況、側面がシノダケで補強されている。



⇨シノダケを束にする女性陣。



⇨シノダケの束を積み上げ側面を補強しています。

■ 花壇の整備

花壇のフジバカマの株が混み合ってきたので移植しました。またオミナエシ（1株）、カラミンサ（4株）の苗を植えました。植物は、これから気温の上昇とともにどんどん成長します。6月の活動の時にどのくらい成長しているのか見るのがとても楽しみです。



フジバカマ移植前



整備された花壇



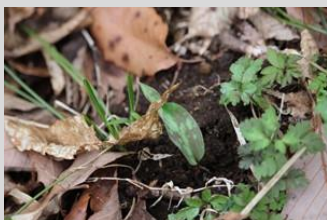
花壇担当女子チーム

■ 早春の雑木林でカタクリの観察

くまの木から旧通学路を使ってカタクリが群生する雑木林まで行きました。雑木林では、カタクリの花が見ごろを迎えていました。カタクリの花だけではなく葉の模様や葉が落ち葉を突き刺している様子を愉しみました。



カタクリ



落ち葉を突き刺している
カタクリの葉



イチリンソウの仲間
(アズマイチゲ)

■ トピックス

- ① 水を抜いたビオトープで作業を始めると泥の中から沢山のドジョウが出てきました。「NHK ダーウィンが来た」(3月19日放送)でドジョウを取り上げ、水の引いた田んぼの泥の中にドジョウが潜り込んで乾燥に耐えていることを紹介しました。この姿を今回の活動の中で実際に見ることが出来てとても良かったと思います。

また、水中で越冬するクロゲンゴロウ、ガムシが泥の中から出てきたことに驚きました。クロゲンゴロウを水に入れると体が水をはじいて上手く潜ることが出来ず水面をぐるぐると泳ぎ回っていました。まるで大きなミズスマシのようでした。水棲昆虫は、見ていて飽きません、あっという間に時間が過ぎてしまいます。

- ② 2011年に花壇にレンゲのタネを蒔きました。なかなか思ったように花が咲いている様子を見るが出来ませんでした。今年は花壇の三分の一ほどの広さにレンゲが花を咲かせていました。ようやく定着したようです。レンゲの花はあまり目立たないですが、近寄ってよく見ると白地の花弁にムラサキ色のグラデーションがかかっているとても綺麗です。



ドジョウ



クロゲンゴロウ、コオイムシ、ガムシ



レンゲ

2. ムシプロだより

① スタッフの近況

くまの木とこのプロジェクトを立ち上げた遠藤さんの近況です。

退職すると暇人と思われ、今年度から地元自治会の副会長兼会計を引き受けさせてしまいました。これまでの慣習で、入出金に絡むことは段取りから実施まで、自ら動かなければならないというひどい役回りだと知ったのは着任後でした。前会長から、暇で、人がいい者を、引っ掛ける、3Hの法則だと言われ落ち込みました。

自宅の庭には山野草を植えて季節を感じるのを楽しみにしています。けれども今年は上記の理由で特に4、5月は忙しく、週に一度見るような状況です。今日（4月19日）、強風の庭に出ると、9日前に満開だったイカリソウは既に元気な葉だけとなり、オキナグサは萼片を落として種を付け始め、エイザンスミレは見る影もない姿になっていました。いつのまにかヒトリシズカやチゴユリが咲きはじめました。一年で生を終える多くのムシと異なり、植物（多年草）はゆっくりとした生き方をしている「のんびり屋」と思っていました。ムシと同じように限られた時期を急ぎ生きているのだということに改めて思い知りました。じいさんも残り少ない人生、のんびりしてられない！

(写真・文 遠藤 正久)



イカリソウ



葉だけになったイカリソウ



ヒトリシズカ

3. 自然の楽しみ方（春）

● 鳥たちの春（水の匂いに誘われて）

古代ハスを育成しているため池のかいぼりが終わり水がはられた。早速、コサギが訪れ、食事を始めた。前に出した足を細かく揺らし泥の中から飛び出してくる生き物を捕らえた。なんと、「ガサガサ」を行っているのだ。そこにダイサギが現れ、コサギの後ろをついて歩き始めた。コサギが取り逃がした生き物を狙っているのだ。コサギは出てきた生き物を取り逃がすことはなかったため、やがてダイサギは飛び去った。サギの器用さとしたたかさに感心させられた。

※シラサギは、白いサギの総称でシラサギという名前のサギはいない。小さいサギに「コサギ」、大きいサギに「ダイサギ」、中間のサギに「チュウサギ」という名前が付けられている。（写真・文 西野 孝法）



コサギ
体長約60センチ、頭に飾り羽がある。



ダイサギとコサギ

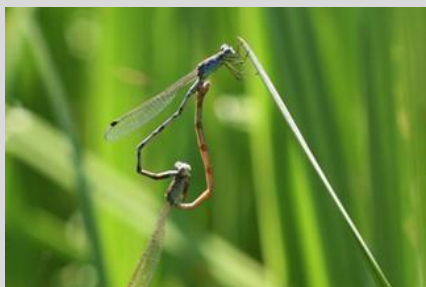
● ムシたちの春（恋の季節）

ムシたちの一生は実に多様性に富んでいる。トンボに成虫で冬を越すもの変わり者が、いる。「ホソミオツネントンボ」と「オツネントンボ」だ。両方とも細いので見分けるのは困難だが、ホソミオツネントンボは、成熟すると鮮やかな青色に変わるので見分けられるようになる。（写真・文 西野 孝法）



ホソミオツネントンボ

ホソミオツネントンボの交尾



上がオス、下がメスである。

メスが腹の先をオスの腹の付け根にある交尾器にあてがってハート型になっている状態を交尾という。

右の写真を回転させると♡になるよ。

※オスとメスが「キ」の字のようにつながった状態を「おつながり」という。

4. 事務局より

今年第1回活動大変お疲れ様でした。予定通り花壇、ビオトープの整備を行うことが出来ました。作業は大変でしたが、泥の中から沢山のドジョウがでてきたことやカタクリの花が疲れを癒してくれました。今回の様子は、以下のアドレスをクリックしてパスワードを入力してご覧ください。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/HZzRcDMEZJi>

パスワードは、20170408 です。

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Word に貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。

アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2017年5月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：harukan@ac.auone-net.jp

今月の表紙

ギンヤンマ (ヤンマ科)



- ・ 体長：70 ミリ前後 、日本全土に生息
- ・ 緑色の目と胸、茶色の腹、バランスのとれた体型、力強い飛翔など「美しさと力強さ」を持ったトンボ
- ・ オスは、胸の一部が青い。
- ・ 小さいころから憧れのトンボである。止まることが無いので、採るためにどれだけフィールドを走り回ったか、網を振り回したかわからない。日本の各地で様々な採集方法があり、試してみたがどれも上手くいかなかった。



今でもギンヤンマを見つけると胸が高鳴る。
幼虫(ヤゴ)は、一年中、水草の多い池で見られる。
都会でもビオトープをつくと訪れる。

(写真・文 西野 孝法)